



J. FRONT RETAILING

2010年 4月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2010年3月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	3月度
百貨店業	▲ 2.9 (▲2.4)
スーパーマーケット業	▲ 1.0
卸売業	▲ 15.7
その他事業	13.9
連結合計	▲ 3.3

（注）百貨店業合計の（ ）内は松坂屋岡崎店(10年1月31日営業終了)を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・ 3月の百貨店事業の売上高は、心齋橋店北館のオープン効果に加え、大丸松坂屋百貨店誕生記念販促「春のザ・バーゲン」などにより売場特価を中心に嵩上げ効果があったものの、日曜日が前年に比べ▲1日減であったこと、中旬以降に気温が低下したことに、梅田店、京都店、銀座店などの改装工事による売場面積減少の影響も加わり、大丸松坂屋百貨店直営店は既存店ベースでは対前年▲2.1%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計は同▲2.4%減となった。

2) スーパーマーケット業

- ・ ピーコックストアは、青山店、自由が丘店、グランパーク田町店、上池袋店などが好調であったことに加え、全店で実施した創業50周年記念企画や均一プライスなどの販促が奏功したこともあり、首都圏と関西地区の店舗を中心に売上のマイナス幅を縮小させ対前年▲1.0%減となった。
 地区別では、首都圏が対前年▲0.1%減、関西地区が同▲1.1%減、中部地区が同▲8.8%減であった。

3) その他

- ・ 卸売業の大丸興業は、食品やホームセンター向け商材など全般に苦戦し、対前年▲15.7%減となった。
- ・ その他事業は、JFRカード、大丸ホームショッピングなどが好調であった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2010年3月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	3月度	
	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	19.6	79.0
大丸 梅田店	▲12.2	0.3
大丸 東京店	▲8.3	0.3
大丸 ららぽーと横浜店	▲9.7	-
大丸 浦和パルコ店	▲0.8	-
大丸 京都店	▲3.6	▲0.2
大丸 山科店	▲2.7	-
大丸 神戸店	▲4.3	4.0
大丸 新長田店	▲1.3	-
大丸 須磨店	▲6.8	-
大丸 芦屋店	▲0.1	-
大丸 札幌店	4.9	4.2
松坂屋 名古屋店	▲3.4	▲5.2
松坂屋 上野店	▲0.9	4.7
松坂屋 静岡店	▲5.7	▲8.6
松坂屋 銀座店	▲12.8	▲2.9
松坂屋 高槻店	▲21.0	5.4
松坂屋 名古屋駅店	▲4.7	0.8
松坂屋 豊田店	▲1.7	▲0.9
大丸松坂屋百貨店合計	▲2.1	7.1
博多大丸	▲2.7	3.7
下関大丸	▲6.5	▲3.9
高知大丸	▲6.2	▲4.3
百貨店事業合計	▲2.4	-

(注1) 松坂屋岡崎店（2010年1月31日営業終了）は除く。

松坂屋岡崎店を含めた売上高は、3月度は直営店合計対前年▲2.7%減、百貨店事業合計同▲2.9%減。

(注2) 参考数値として、大丸松坂屋百貨店のうち大丸合計は対前年▲0.7%減、松坂屋合計は同▲4.5%減。

(注3) 2010年3月から、大阪法人外商は高槻店から心齋橋店へ移管、また、東京店の個人・法人外商および銀座店の個人外商は上野店に移管。

2. 大丸松坂屋百貨店直営店 商品別売上高対前年増減率（％）

	3月度
紳士服・洋品	▲8.5
婦人服・洋品	0.7
子供服・洋品	▲5.1
その他の衣料品	▲0.8
衣料品計	▲1.5
身 回 品	▲0.8
化粧品	▲1.2
美術・宝飾・貴金属	2.7
その他雑貨	▲18.6
雑 貨 計	▲1.8
家 具	▲0.9
家 電	▲27.6
その他の家庭用品	▲0.6
家庭用品計	▲2.3
生 鮮	3.7
菓 子	▲4.5
惣 菜	▲4.8
その他食料品	▲9.2
食料品計	▲3.9
食堂・喫茶	▲6.7
サービス	▲42.1
そ の 他	8.5
合 計	▲2.1

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、心齋橋店北館開設効果で好調なヤング・ヤングアダルトファッションや全店で開催した大丸松坂屋百貨店誕生記念「ザ・バーゲン」による嵩上げが寄与し堅調であった。紳士服・洋品は、スーツ、ネクタイ等ビジネスウェア関連が低調であった。身回品は、アクセサリが売場特価中心に好調であったものの、ハンドバッグ、婦人靴は苦戦した。雑貨は、時計、宝飾品等の高額品が外商中心に好調であった。食料品は、名古屋店の北海道物産展を2月に一部前倒し開催した影響などもあり苦戦した。

〔 なお、前期(注3)の外商移管の影響を除いた売上は、心齋橋店が対前年15.3%増、東京店が同▲4.9%減、上野店が同▲5.7%減、銀座店が同▲7.8%減、高槻店が同▲1.6%減。 〕